



ガンガン いこうぜ

宇和島で冒険をはじめよう。

こんなときでも、いやこんなときだからこそ、宇和島で新しいコトをはじめている人たちがいます。今回の特集ではその一部を紹介。「住みたくなる・帰りたくなる・連れて行きたくなる」まちを目指して、ガンガンいこうぜ。



失敗をおそれず、挑戦できるまちに

UWAJIMA QUEST

コーディネーター

大谷 晶一さん

見学だけでもいいので、
まずは気軽にのぞきにきてください。

UWAJIMA
QUEST
Coworking Space

みんなでやればこわくない

高知県出身の大谷さんは、国内外での勤務経験を経て独立起業し、これまでさまざまな形で地域貢献に取り組んできました。宇和島に来て6年を迎え、より直接的にどう貢献できるかと考える中で、自身の経験を活かした人材育成に取り組むことを決めました。具体的には起業、創業の土壌作りです。高校生を含めた若い人の選択肢の中に起業や創業が当たり前にあるようにしたいと願い、それにはまず大人が楽しんでる姿を見せて、未来の自分を想像できるようにしなければならぬと考えました。楽しんでる人たちの姿を見ることができ、知識やアドバイスを得られる場として、コワーキングスペース「UWAJIMA QUEST（ウワジマクエスト）」をオープンしました。

大谷さんは、地域活性化のためには失敗できる文化を育む必要があると言います。「失敗も経験なので、失敗してもいいんだよと背中を押せるまちにしたいです。もちろんフォローもしつかり行って。挑戦できる環境さえ整えてあげれば、1歩を踏み出す人はたくさん出てくると思います」と大谷さんは期待を寄せます。しかし1人でやるのは勇気があること。そこで、夢を持つ人が集い想いを共有できる場所となるのも「UWAJIMA QUEST」です。

あなたのクエストは何ですか？

「クエスト」には冒険や探求という意味があります。利用者がそれぞれのクエスト（目標）を持ち寄って意見を出し合ったり、クエストを持



左上／広いコミュニティスペースでは、仕事や作業をしながら利用者同士の交流もできる。休憩の取れるカウンターも。右上／仕切りがある集中スペースは短時間で集中して利用したいときにオススメ。右中／会議室大にはモニターもあるのでさまざまな用途に利用できる。右下／キッチンも完備。個人利用のほか試食会や新作メニュー発表会などにも。下中／3部屋ある完全個室はオンライン会議などに。左下／会議室小はインタビューやYouTube用動画撮影などに最適。



UWAJIMA QUEST
昨年12月に市内に
オープンしたコワー
キングスペース

市の施設にも整備中！ コワーキングスペースって何？

コワーキングとは、個人事業者や起業家、在宅勤務が可能な会社員、ノマドワーカーなど、場所の縛りがない環境で働いている人たちのワークスタイルです。このコワーキングを支えるのが、コワーキングスペースと呼ばれる施設です。コワーキングスペースで設備を共有することで、経費の削減や利便性を得ることができます。また、共有スペースで生まれる交流によって、情報交換や協働などの相乗効果が期待できます。



市内外で活躍する人をゲストに招いたオープニングイベント。イベント会場としての利用も。

たない人でも誰かのクエストをパーティ（仲間）としてサポートしながら、クリアに向けて切磋琢磨してもらいたいと大谷さんは話します。冒険者の想いが交差する場所「UWAJIMA QUEST」。少しでも興味がある人は、ぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。きっと新たな発見があることでしょう。さあ、あなたのクエストは何ですか？

ゲストと地域が つながる場所に

ゲストハウス 阿部邸

ニルソン シーモン さん

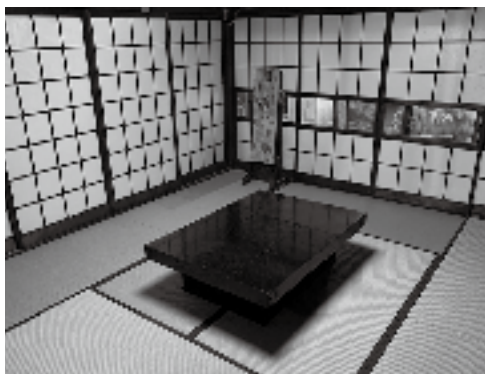


岩松の魅力がたくさんの人に伝えたい

スウェーデン出身のシーモンさんは、留学で来日した際に奥さんと出会い、結婚を機に本格的に日本に移住しました。奥さんの妊娠中、子育てのため地方への移住を考え、県の移住体験ツアーに参加したり南予を案内してもらう中で宇和島の魅力に惹かれました。宇和島のことを調べの中で本市が岩松地区で地域おこし協力隊を募集していることを知り、協力隊として2018年1月に赴任しました。地域の人がとても親切で、自身も田舎育ちだったこともあり、すぐに溶け込めたそうです。「苦労したのは方言くらい」と笑います。

当初は自身のバーテンダーとしての経験を生かしてカフェの営業を考えていましたが、お遍路などで外国からの宿泊客も多いことから、通訳がいる宿泊施設の必要性を感じ、ゲストハウスを開くことを決めました。

シーモンさんは、この場所を利用者と地域の人たちが交流できる場になりたいと言います。「交流することで地域に賑わいが生まれれば。また津島には岩松地区のほかにも良いところがたくさんある。情報発信もしっかり行って、お遍路だけではなく観光でもっとたくさんの方が来るようにしたい」と意気込みます。



ゲストハウス 阿部邸

明治40年ごろに建てられた旧阿部邸（阿部酒造）を活用したゲストハウス。オープンは今春ころを予定。

ゲストハウスって何？

ゲストハウスは、共用スペースを有した「シェアする旅の宿」です。プライベート性の高いホテルや旅館とは異なり、初対面の宿泊者同士や宿のスタッフ、地域の人たちなど他者とのつながりを重視した共用空間がある、パブリック性の高い宿を指すケースが多いようです。比較的低予算で宿泊できる気軽さだけでなく、普段のコミュニティとは異なるつながりや、ガイドブックには載っていないローカルな情報を求めて、職業、年齢、国籍を問わず、さまざまな人たちが世界中から集まる場所です。



広報1月号で紹介した奥谷さんも、吉田町奥南地区でゲストハウス「凧ハウス」を運営しています。

宇和島で 恩を「送る」

ゲストハウス Dear U

西田 怜央 さん、沙織 さん

ゴキゲンな宇和島ライフを

留学先で出会った宇和島生まれ大阪育ちの怜央さんと、北海道生まれ東京育ちの沙織さん。海外で多くの人と知り合う中で、自分たちも心に残る「一期一会」を提供したいとゲストハウスオープンを夢に持つようになりました。2人はまず、海外で出会った友人に日本のことを聞かれた際うまく答えられなかった経験から、日本一周の旅に出ました。その中で怜央さんの生まれ故郷である宇和島を訪れ、暮らしやすさ、まちのサイズ感、観光資源の多さ、そして人の温かさから、宇和島でゲストハウスを開くことを決めました。名前は「Dear U」。日本一周を終えると結婚を機に宇和島に移住し、まず宇和島のことを知ってもらうために観光オンラインツアーを実施しました。このツアーは好評を博し、今後定期的に開催していく予定だそうです。沙織さんが表に立ち、怜央さんはそれをしっかり支えながら、現在は物件探しに奔走中です。ゲストはもちろん自分たちも楽しみながら、国内外いろんな場所でもらったたくさんの恩を「Dear U」を通して送っていきたくと話してくれました。

ヒッチハイクで日本一周しながらウェディングフォトを撮影。各地のゲストハウスを見ることで自分たちの理想が固まったと言います。



つながりを活かして、つながりが生まれる場所を



グリズリーBBQ&CAMP

大原 セイイチ さん

グリズリーBBQ&CAMP
昨年7月に吉田町知永にオープンしたキャンプ場

人とつながること
新しい世界が広がる

大原さんは、県外の大学で土木工学を専攻し、県内のゼネコンで測量・現場監督としてトンネル工事を中心に数々の施工に携わりました。その後、建設業界を離れ新たな挑戦の場として宇和島に帰省し、幼少期に衝撃を受けたヴィンテージモーターサイクルに関わる仕事を起業しました。全国で開催されるカスタムショーに自身が製作したバイクを積極的に出展し、同時にモーターサイクルに関するアパレル業も展開するなど、バイクを通じて国内外へとネットワークを広げました。

しかし昨年、新型コロナウイルスの感染が拡大し、全国的に自粛ムードが広がりました。そんな中、こんなときこそ何かおもしろいことができないかと大原さんは考えました。そして思いついたのが、コロナ禍でのアウトドア需要も見越し、ツーリングなどで宇和島に来てそのまま泊まれるキャンプ場でした。名前は「グリズリーBBQ&CAMP（以下、グリズリー）」。

建設現場での経験を生かして自分の手で1から整地し、ウッドデッキやディスプレイも自作しました。使われているのは廃材となる予定だった線路の枕木です。「地元で再利用することに意味があるんです」と大原さんは言います。ツリーハウスも自作したほか、もっと子どもが遊べるように緑を増や

上左／次なるおもしろいことを目論む大原さん。下左／キャンプ場にあるツリーハウスも自作。上右／たくさんのバイクやパーツが並ぶカスタムショップのガレージ。



したりハンモックを作ることも考えているそうです。さらに、イベントへの出店中止が相次ぎ困っているバイク関係者がいると聞くと、出店者を募ってオープンングイベントを開催しました。イベントは大盛況で、今年も第2回を開催予定だそうです。グリーはバイクの全国誌にも掲載されるなど、多方面に広がりを見せています。

自身の「直感」と「嗅覚」を頼りに、どんどん行動することで夢を実現させてきた大原さん。グリーズリーについて「キャンプやデイキャンプはもちろん、外ヨガやBBQイベント、アウトドア会議などさまざまな使われ方をする中で、新しいつながりが生まれる場所になれば」と期待しています。

「人とつながることで、新しい世界がどんどん広がった。宇和島は誰か1人を介せばつながるような狭いまち。それを悪いことと思わずにどんどんつながって、いろいろな業界がコラボして宇和島がおもしろくなれば最高ですね」と笑顔で語ってくれました。

宇和島で チャレンジしよう

今回話を聞いた人は、皆さんつながりの大事さを語ってくれました。ほかにも、宇和島には新しいことにチャレンジしている人がたくさんいると思います。ただ中には、自分だけで考えてやっている人も多いのではないのでしょうか。少し外に目を向けてみてくださいますか。とてもおもしろいことをしている人たちが見つかると思います。そんな人たちとつながることで、人が人を呼び、大きな流れが生まれていくのだと思います。本市は、その流れを全力でサポートします。それぞれの夢や想いがつながる場所、ココロまじわうトコロ「宇和島」で、チャレンジをはじめませんか。